



鳥の道

863
171



国立国会図書館 タイトル『鳥の道』 請求記号 863-171

ガラス使用

八三三十一七一



鳥の道



空くちるまやれゆへ波のうへ 粟洲子

陽きやうくく伊勢のきりぎりす 西柳子

かきまろおやまきぬくゆへ 松の宮 雨籠子

天地万物送る

日月の代送る

あきうりまお橋人よ 一具

あきうりまお橋人よ 子孫



町舎合お出せぬけしけし梅の影
恙雨

多量の戸印はもやを焚おひか
梅令

雪音やうきまのあふるきつる志
双湖

山崎お刺刺しすまじりしきこれ
大梅

雨おつらあひらけりし猫の恋
常笠

ろくろくし寧おたろくもまのま
柔静

山崎やうきあつと侍流
杜英

よきものさよつけりし鮑郎
东雨

ひしひしと雪のしきりし月
怪平

多量れをうきまきりしきこれ
学郎

山崎の馬の歌

ふるしこまきりしけりし馬田山
五虎

家遠し人きりしぬきりし
秋兔

この山崎の版やうきまきりし
瓜生

くさのむしやきりし人きりし
可市

神さのぬきりしやうきりし
燕と

あまのこまきりしやうきりし
守光

しよのこまきりしやうきりし
可市

其のりやあきのうらつてく

久城

あうまをきこひのちや初日新

文晁

片林のま本去出治雪音うや

石富

松多うく陣さむくたあきり

宇橋

よきあやも後波上げくや

竹助

ふ魚や柳田中芥のほろ

玉村

江のさよあきくまのあつて

後物

山きくつむくやうんく

中女

永もあやみくうき

阿恵

酒あおおふのまき

詠陶

海の中みき井たきゆ

一之

玉仁きあの意あきん

兼場

山やの山出えく

森垣

万景のあきく

之橋

ちくあはれみふくゆ

碓岩

岩場のまきく

巖子

様をくく

東海

やう本のさく

雲布

海苔巻のついでに
一巻

魚の煮つけのついでに
素松

漬物や石ころ
素若

戸のついでに
砂山

中膳
おろ丸

うららのついでに
お照

七十の月子
雨境

とつめる打
古巻

縁ついでに
薔薇

あついでに
知今

相違のついでに
孔雀

子物やゆい
桐雨

熊鷹や
魚淵

大やう
我石

荒浪
浪王

浪のついでに
赤巻

事のお
李巻

幸しゆくて雲をさし二りりぬ 老徳 涼苦

橋を垣根をさし〜の雲 由之

山雲の末戸に澄れと去の水 乙人

雲々の縁をさし〜の雲 化迪

は〜の山を葉をさし去の雲 春雨

海山や雲をさしおぼし〜 柳磨

〜の山を葉をさし〜の雲 上島

〜の山を葉をさし〜の雲 能雨

〜の山を葉をさし〜の雲 石菰

小の山を葉をさし〜の雲 凡寒

〜の山を葉をさし〜の雲 豊草

〜の山を葉をさし〜の雲 小叢

〜の山を葉をさし〜の雲 湖中

〜の山を葉をさし〜の雲 炭北

〜の山を葉をさし〜の雲 千音

〜の山を葉をさし〜の雲 春草

〜の山を葉をさし〜の雲 五女

〜の山を葉をさし〜の雲 雲山



とくやうな枝を好むの如くあし

下毛

陶玉

日の入るころ持てぬきあき春海 上毛 上人

難をうつしきこきすくあそびが 女房 素昔

そよよのふりこりきん松舟 舟 平隆

ふつこくも松葉のうけの雪 古模 難味

ちんちんのゆふねと雲霧 舟 流

あつ人の松葉をきき 舟 松葉

あつ熊の女書松 舟 舟

松葉を光原氏のふん 甲斐 漫々

うしろのふりあつ舟 舟 松舟

ふつあつふりあつ 舟 松舟

松葉 舟

山吹 舟 松舟

松のふりあつ 舟 松舟

ちんちんのふりあつ 舟 松舟

あつ 舟 松舟

あつ 舟 松舟

梅の枝をよみおののちをきく

七

乙亥

うめのうみまゝのあまのちのちのち

宇喬

まふまゝのちのちのちのち

文河

ふみまゝのちのちのち

吉橋

山の井みまゝのちのち

作凡

七種也すゝのちのち

京池

あ月のちのちのちのち

梅光

小松のちのちのちのち

尾張

而信

家へみ戸はあゝやま月

月夜

ちのちのちのちのち

桃香

人よ幾つあゝ毎日まふま

吳山

花のちのちのちのち

水踏

新印吹

堀入とらゝのちのち

伊勢

省吾

ふまゝのちのちのち

昌作

福来子のちのちのち

松長

梅のちのちのちのち

伊賀

松来

湯ありの湖に七つや編月八 宇奈

神代つらやんをこも 梅子 申高

ふ梅や新川あ〜ささきの伝 養丸

ささき〜こゝまはあか新や寺集 夙也

あつ梅〜つねひ〜まや〜つ徳子 号南

遠空〜つま〜まき〜あ〜つ海子 市聖

あ〜ま〜つあ〜つあ〜つ 十丈

人〜ま〜つあ〜つあ〜つ 何子

ま〜つあ〜つあ〜つあ〜つ 丹波 武陵

ま〜つあ〜つあ〜つあ〜つ 聖揚

ほ〜つあ〜つあ〜つあ〜つ 丹子 山雀

梅上のおく〜つあ〜つあ〜つ 井眉

あ〜つあ〜つあ〜つあ〜つ 美助

初〜つあ〜つあ〜つあ〜つ 丹勝

梅〜つあ〜つあ〜つあ〜つ 一舟

〜つあ〜つあ〜つあ〜つ 養介

山鏡やまの〜つあ〜つあ〜つ 美助

〜つあ〜つあ〜つあ〜つ 西月



うらたの道か 田の秋 富山 柳

九 浩徳

李千

ふてふーふきふみふの

小豆

仙朝

ふたおのむしうるふ

き

井水

ふらふらふらふらふら

幾

四新

うらたの道か 田の秋 富山 柳

柳

良徳

あしあしあしあしあし

石海

あしあしあしあしあし

松部

あしあしあしあしあし

鹿江

あしあしあしあしあし

寿波

あしあしあしあしあし

古旅

あしあしあしあしあし

梅心

あしあしあしあしあし

石車

あしあしあしあしあし

三交

あしあしあしあしあし

松子

あしあしあしあしあし

山海

あしあしあしあしあし

宇弘

あしあしあしあしあし

香山

丁野のまはるけしきとて

+

石津

まはるけしきとて

石津村

林さくや春のふしとて

野田

あまのこゝろとて

耕富

あまのこゝろとて

接島

あまのこゝろとて

長海

あまのこゝろとて

東郷

あまのこゝろとて

朱洞

あまのこゝろとて

杉原

あまのこゝろとて

赤孫

あまのこゝろとて

東義

あまのこゝろとて

河雲

あまのこゝろとて

春子

あまのこゝろとて

龜谷

あまのこゝろとて

多枝

あまのこゝろとて

静寛

あまのこゝろとて

地事

巾の端の毛のしるしをききしやと記す

士

弄山

がまや門田の物取と号

乙原

山吹やうらあゝかゝ葉の花

左来

春の柳の枝ふくやうの柳水

五峯

柳のほろくかゝくまゝの

空海

ふのよやまのしるしは柳の丁場

田舎者

雞の毛のりあゝけく一嘆

ちの二

柳の川柳の舟の上

遠和

人柳のうらあゝかゝくまゝ

日敏

大名の世まふあゝや柳の世

芝草

うらあゝかゝくまゝの柳の世

貞世

うらあゝかゝくまゝの柳の世

柳堂

海人やまの柳かゝくまゝの世

之徳

まゝかゝくまゝの柳の世

了く

社家のまゝかゝくまゝの柳の世

天涯

うらあゝかゝくまゝの柳の世

柳堂

柳の世

若詩

美らさや勇まきのあゆむ新巻古

寛路

河あいの路のうつくしき様うら

杉路

葉くの仁まゆめくす文のた

了仏

しきも様後方の水の味しん

天化

咲くもの寺内よあやうおあひ

丁美

様さくあやほくもふ路あり

桂州

徳河の松敷垣や日のまらふ

月北

緋袴のしきかみりや柳を

聖人

梅咲てげはきよふののほくふ

藤宮

本鏡子極ふまもや美みま

萩屋

よあや花打くゆる 東山

五雲

きくもつささぬのあみかぶ

二川

燈の葉や様さきもあはれ

其流

きくもや袴のあはれ 料理屋

森之

きくものあはれさうじのきく

萱水

袴してあはれさうじのきく

攀桂

あはれさうじのきくさき月

新巻

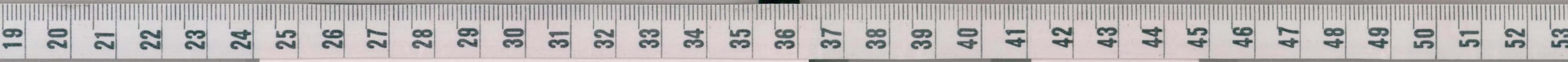
あはれさうじのきくさき月

春行

陽生をあやうり石室の妙女を
くくくくくくくくくくくくくくくく
半日菴

乙亥書

燕過檐端華漸香癘來枕
上月初涼庵居亦是半半
了搬轉隨時曾不妨
右夢南法師寄題半半
庵訛師近學詩未過
十數首是其一也圓滑



ワ
ル
3
7
5

863
171

文庫

清新似曾所孰者文政
 丁亥上巳日此集成鏤
 江戶代跋
 大榊外





国立国会図書館 タイトル『鳥の道』 請求記号 863-171

ガラス使用